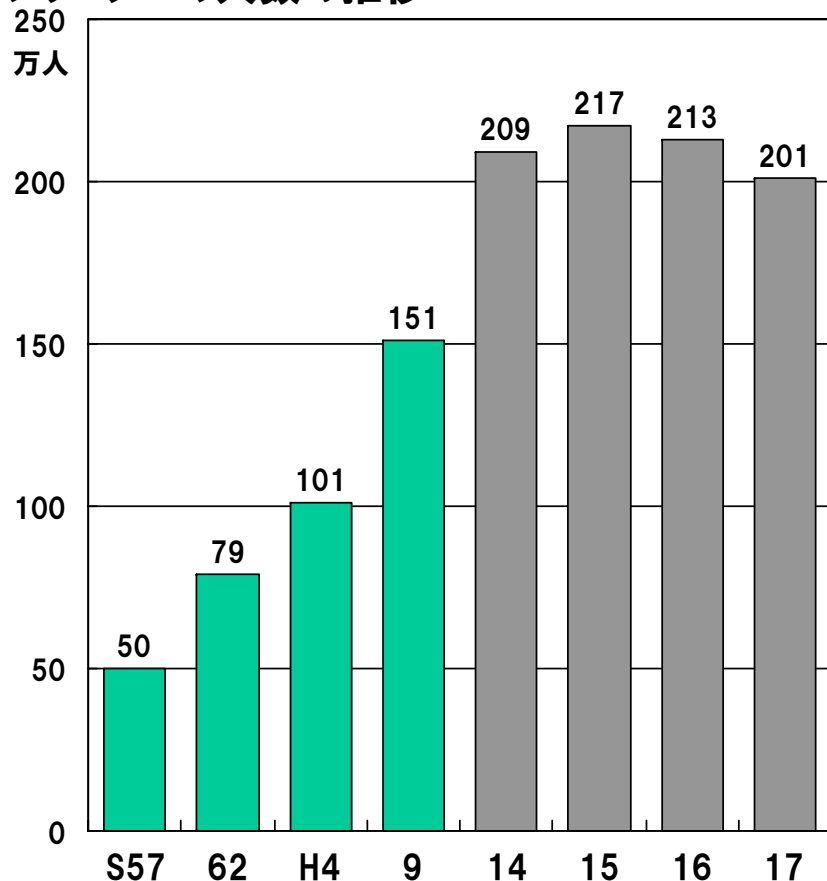


# フリーターや若年無業者数の推移

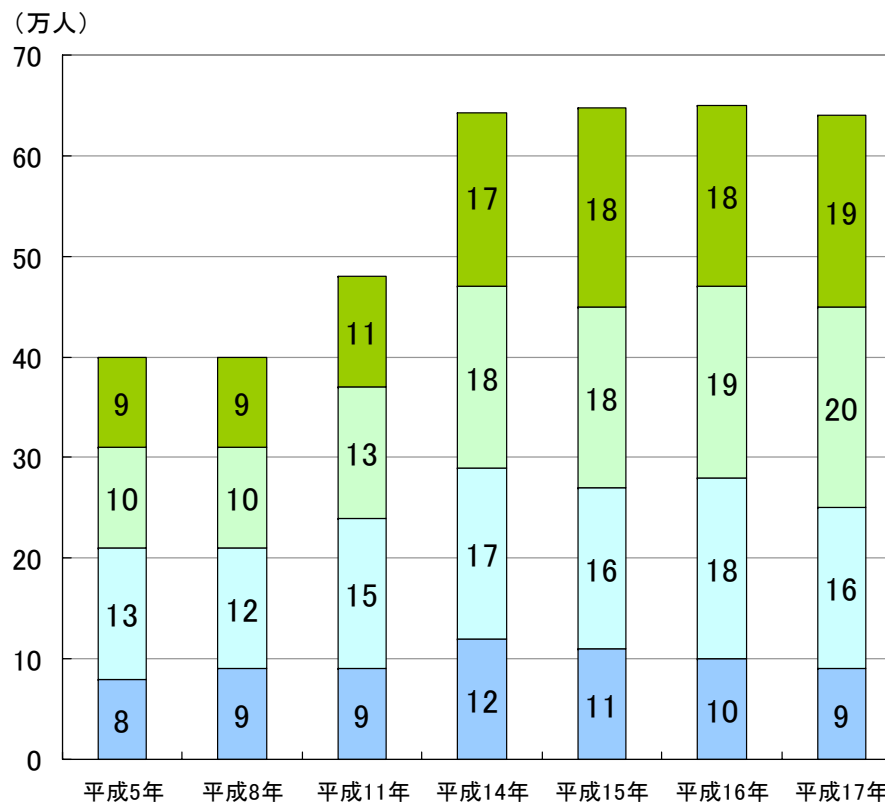
フリーター、若年無業者は近年急激に増加傾向

## フリーターの人数の推移



資料:総務省統計局「就業構造基本調査」(昭和57年-平成9年)、「労働力調査(詳細結果)」(平成14-17年)を厚生労働省労働政策担当参事官室にて特別集計  
 「フリーターは、年齢15-34歳、卒業者であって、女性については未婚の者とし、さらに①現在就業している者については勤め先における呼称が「アルバイト」「パート」である雇用者で、②現在無業の者については家事も通学もしておらず「アルバイト・パート」の仕事希望する者  
 昭和57年から平成9年までの数値と、平成9年から17年までの数値とは、フリーターの定義等が異なるため接続しない点に留意。

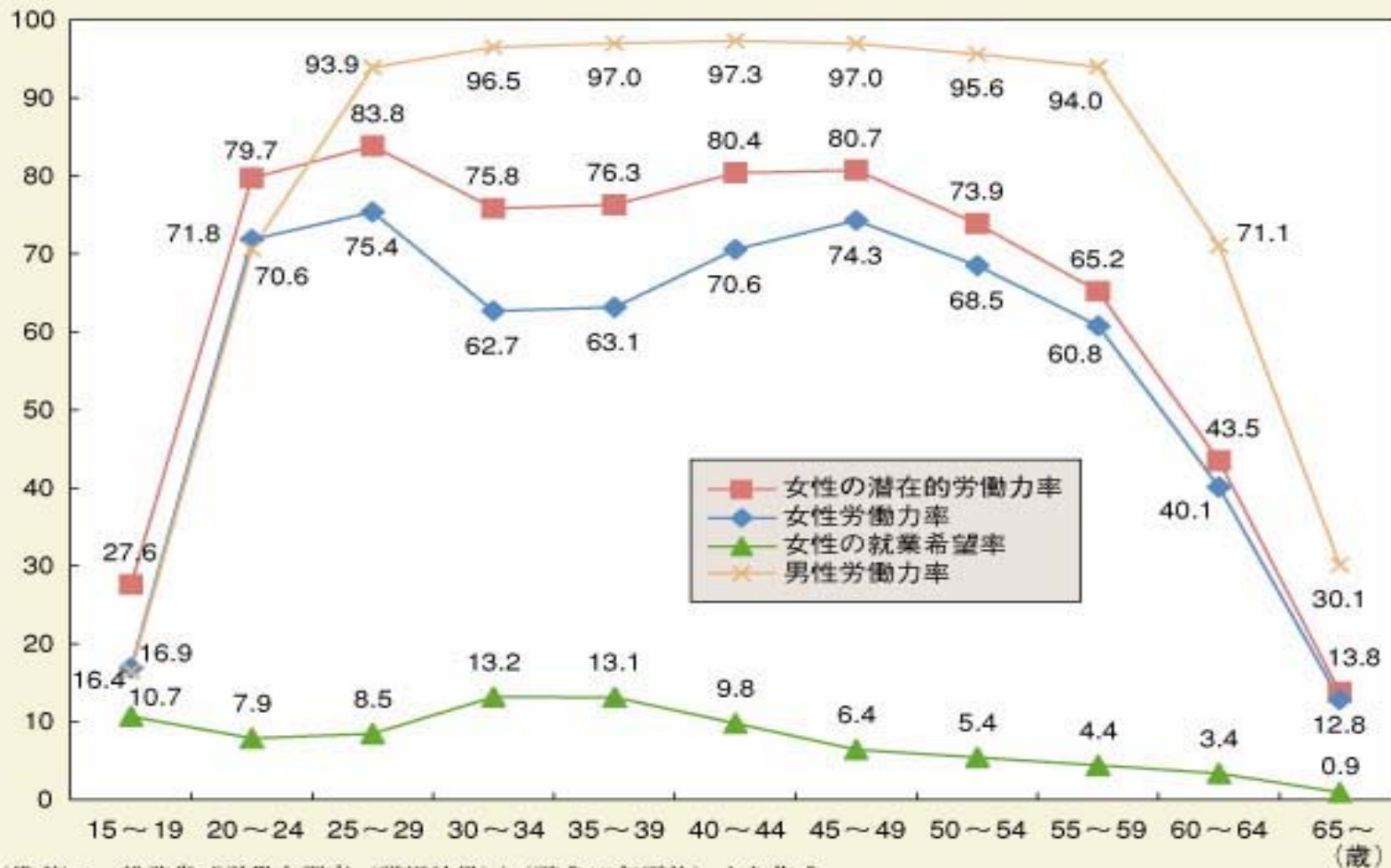
## 若年無業者数の推移



資料:総務省統計局「労働力調査」  
 若年無業者について、年齢を15-34歳に限定し、非労働力人口のうち通学も家事もしていない者として集計

# 女性の年齢階級別潜在的労働力率

女性の労働力率は、子育て期に当たる30歳代前半で低下する「M字型カーブ」を描いている。また、女性の就業希望率は30代で高くなっており、子育て期の就業希望者は多い。

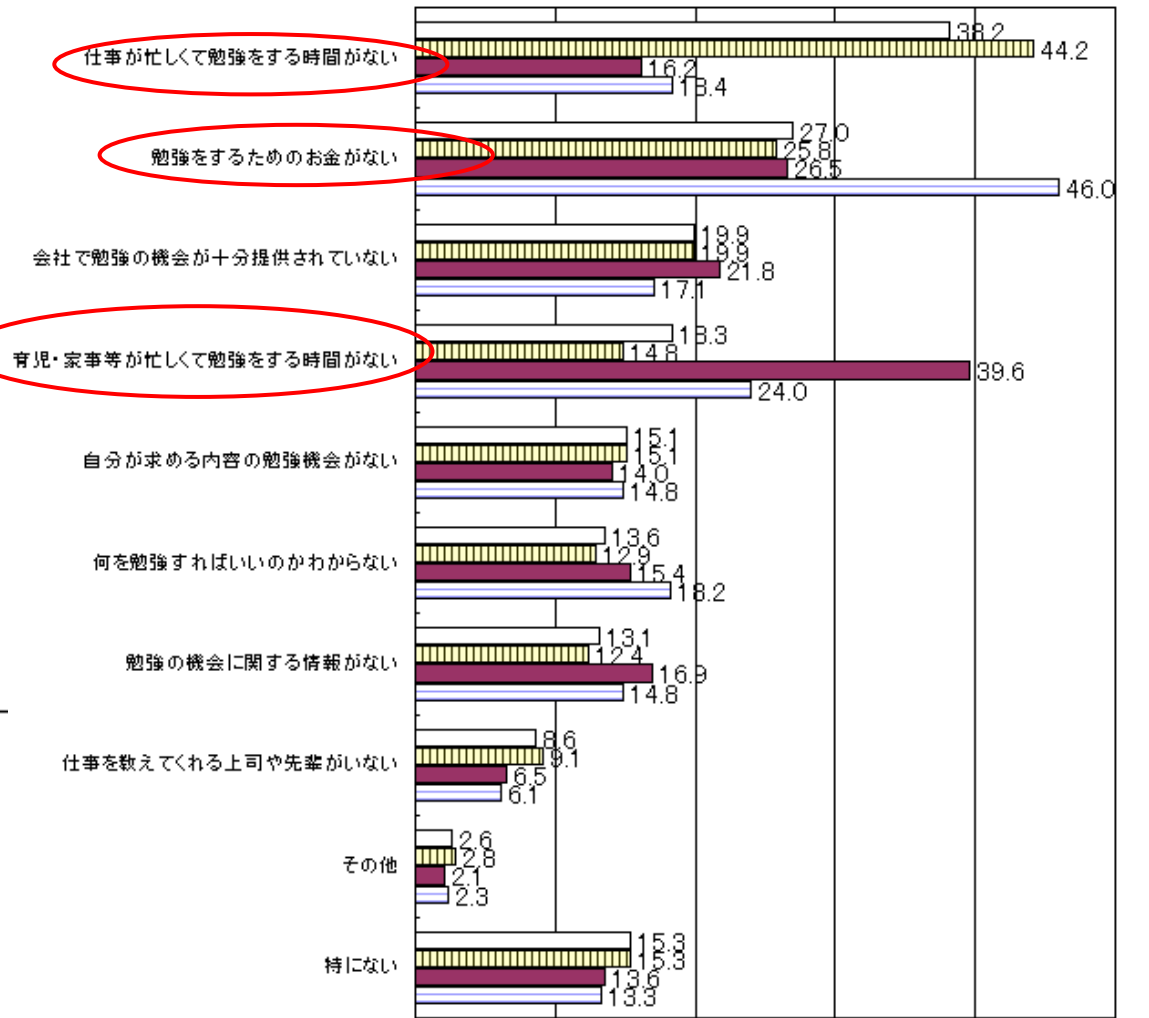
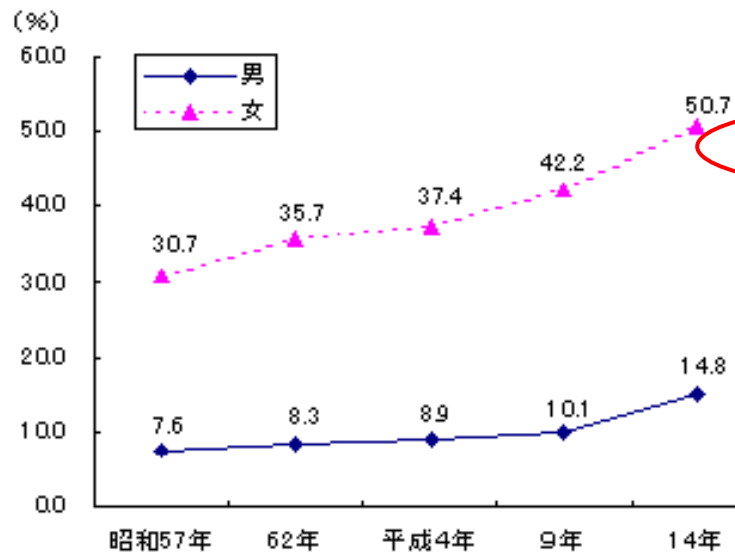


(備考) 1. 総務省「労働力調査(詳細結果)」(平成17年平均)より作成。

2. 年齢階級別潜在的労働力率 = (労働力人口(年齢階級別) + 非労働力人口のうち就業希望者(年齢階級別)) / 15歳以上人口(年齢階級別)

# 女性に増大する非正規雇用

女性では「非正規就業者」の割合が多く、非正規就業者は学習機会が少ない。

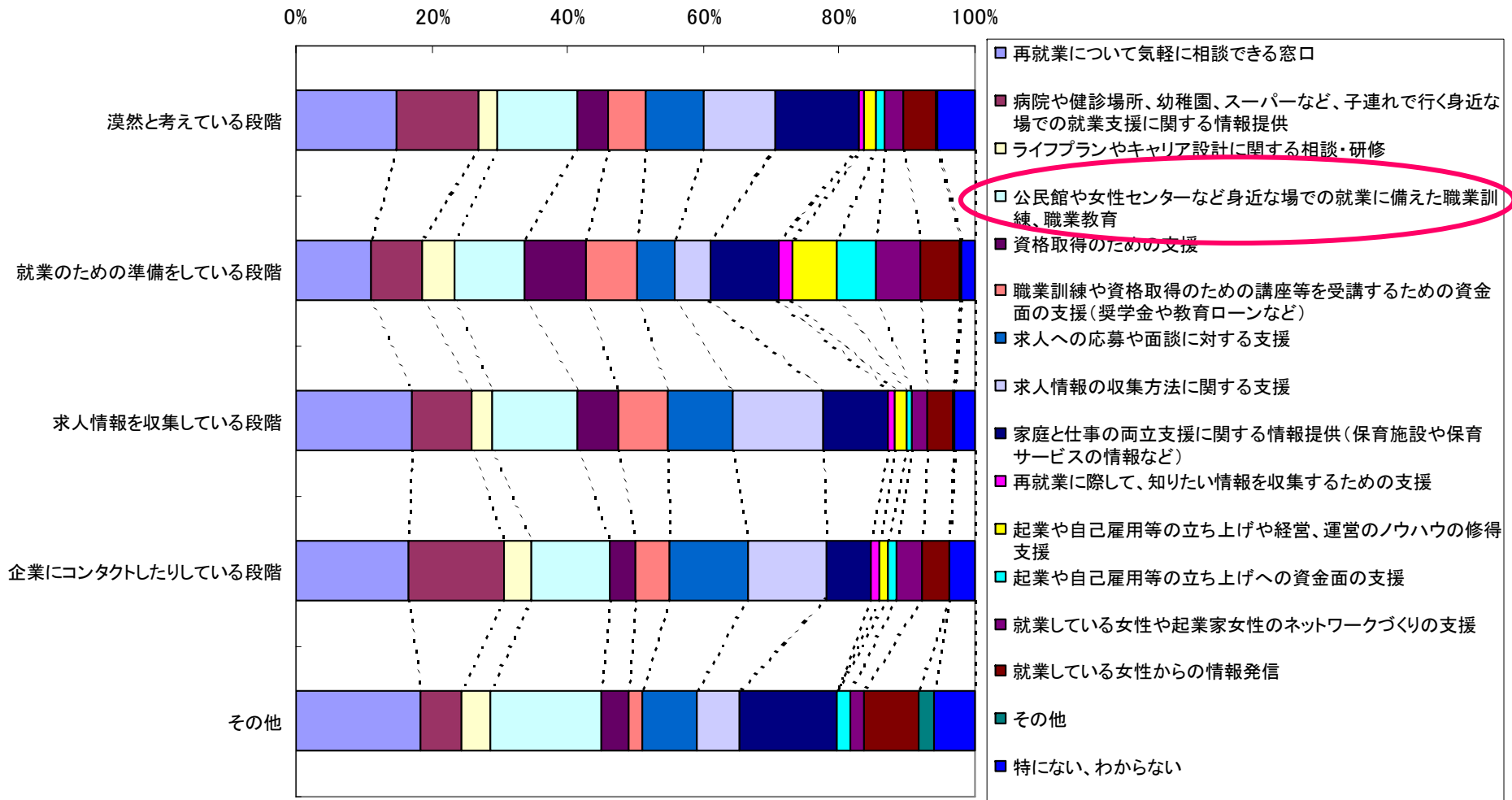


資料: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「労働者の働く意欲と雇用管理のあり方に関する調査」(平成16年)  
総務省統計局「就業構造基本調査」(平成14年)

□ 派遣労働者 ■ パートタイマー ▨ 正規従業員 □ 全体

# 女性が希望の仕事に再就業するためにあつたらよいと思う支援

身近な場所での就業支援(就業に備えた職業訓練、職業教育)が、求められる支援の上位を占めている。



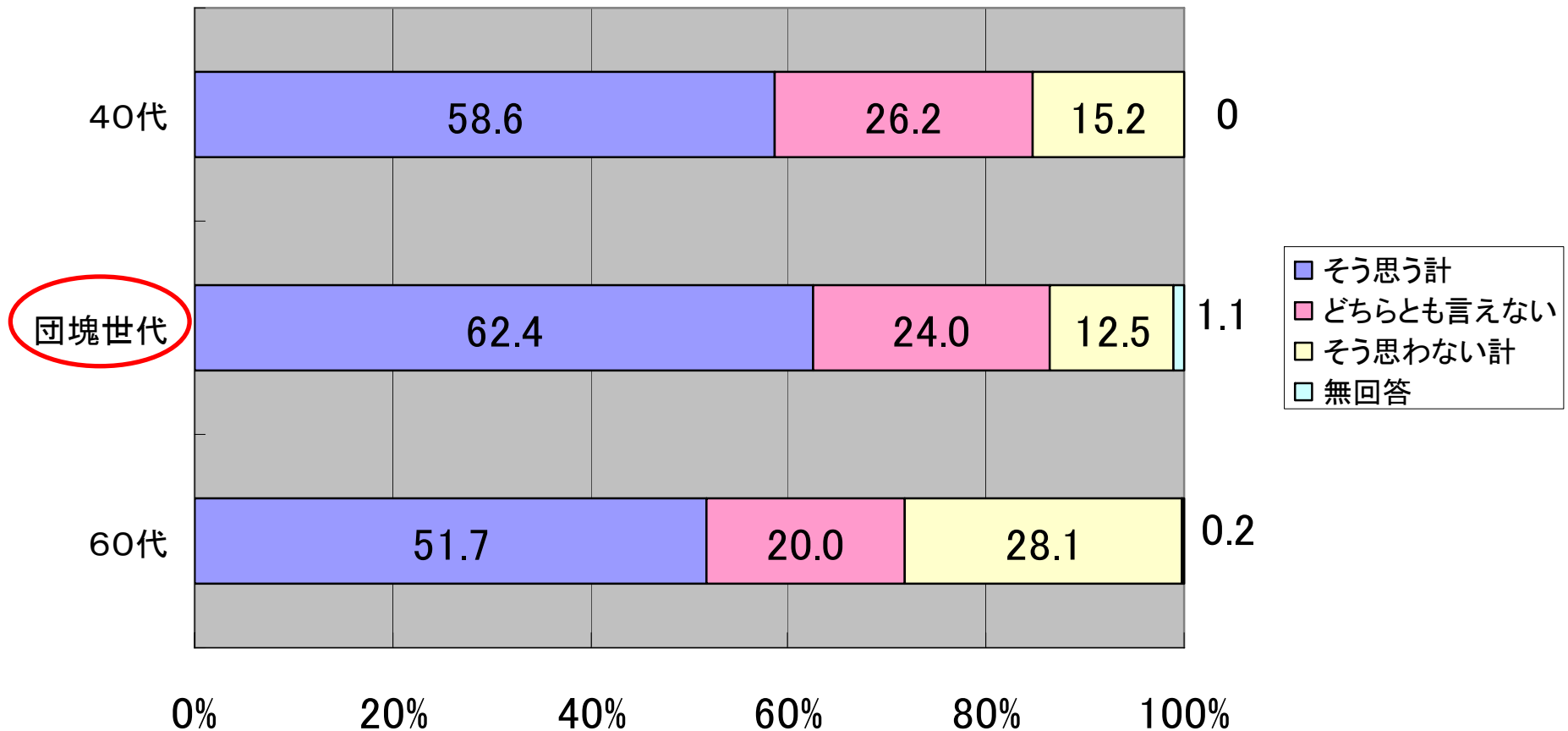
資料:UFJ総合研究所「わが国の労働市場における各種制約と再就業に与える影響に関する調査研究報告書」(平成17年11月)

※末子が4歳以上小学校までの子どもをもつ、無業だが就業の意向を持つ女性を対象としている。

# 団塊世代の定年後の社会的役割の意向

団塊世代は6割以上が、引退後も「社会的役割」を持ちたいと希望。

定年(引退)後の社会的役割意向有無



資料: 博報堂エルダービジネス推進室 「団塊世代～定年(引退)後のライフスタイル調査」

調査概要 調査時期: 2005年7月上旬 調査地域: 全国

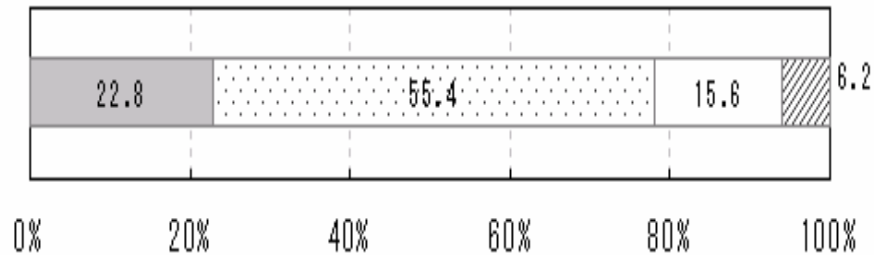
調査対象: 40～60代男女合計1354名のうち団塊世代(1946-1951年生)男性258名、女性102名

調査方法: インターネット調査

# 団塊世代の仕事継続志向

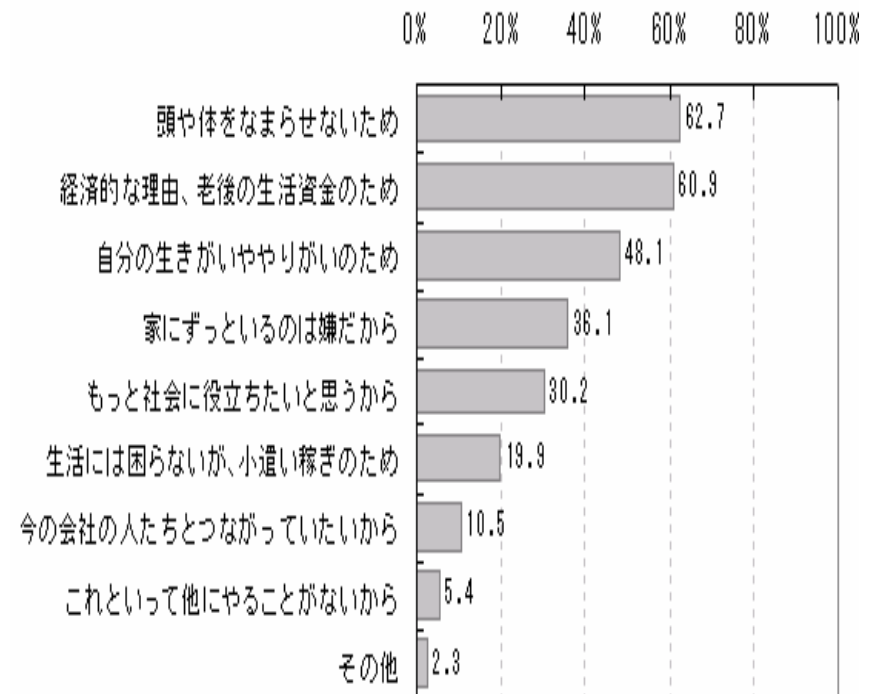
団塊世代のうち約8割が、60歳を過ぎてからも仕事をもち続けたいと考えている

60歳を過ぎてからも仕事をもち続けたいか(N=500)



- 仕事をもち続けたいし、その目処も立っている
- 仕事をもち続けたいが、未定である
- もう仕事はしない予定である
- ▨ わからない

60歳を過ぎてからも仕事を続ける理由(複数回答、N=391)



資料:野村総合研究所「団塊世代のセカンドライフに関するアンケート調査」

2005年8月、全国の55歳以上60歳未満の会社員・公務員500人を対象に、NRIのインターネットリサーチサービス「TRUENAVI」を使って実施。